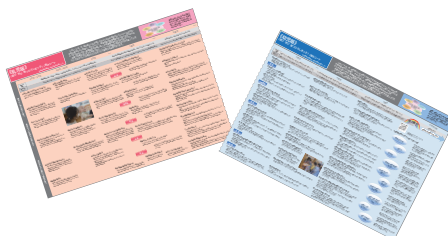


(2) 『遊び 学び 育つひろしまっ子！』育みシート』の活用によって期待されること

子供理解の深まり × 振り返りの習慣化 = 園・所の活性化 → 保育の改善

0歳児から架け橋期までの育ちのつながりを見通すことができる

「育みシート」は、乳児版、幼児版の2枚に分かれており、それぞれ0歳児から2歳児、3歳児から架け橋期までの生活や遊びの中で見られる子供の姿を記載しています。この子供の姿は、広島県教育委員会が発行している『遊び 学び 育つひろしまっ子！』教育・保育実践事例集（平成30年3月発行）の、「生活や遊びの中で見られる具体的な姿」を主に参考にしており、要領・指針等が示している5領域のねらいや内容にも対応しています。0歳児から架け橋期までのおおよその育ちを踏まえたものとなっているため、育ちのつながりを見通すことができます。



子供を見取る視点が多様になり、子供理解が深まる

この「育みシート」を使った子供の見取りに、正解はありません。

例えば、保育カンファレンスなどで、保育者同士の見取りを共有し、自分にはない視点に触れたり、新たな発見をしたりすることで、多様な視点があることに気付くでしょう。それは、自分の保育を多面的に見つめ直すことにもつながります。互いに学び合いながら子供理解を深めていくことが大切です。

年齢の発達の特徴を踏まえた保育者の関わりを考えることができる

「育みシート」の上部には、月齢や年齢における「発達の特徴」及び「関わりのポイント」を記載しています。子供の姿を見取るときに、この内容を参考にすることで、「育みシート」中央の子供の具体的な姿だけでなく、発達の特徴を踏まえた保育者の関わりを考えることができます。

子供理解をベースにした教育・保育のPDCAサイクルの習慣化が図られる

「育みシート」を活用した子供の姿の見取りをベースに、保育内容や環境構成等を見直し、新たな指導計画を立て、再び実践をすることは、教育・保育におけるPDCAサイクルを循環させることにつながります。そして、それを繰り返すことによって、PDCAサイクルの習慣化が図られます。

「育みシート」を使った子供の見取りは、

- ・保育者個人の振り返り
- ・園・所等での保育カンファレンス
- ・幼保小連携・接続において乳幼児期からの育ちがどのようにつながっているかについて考える場 等



子供理解を深める様々な場面での活用が可能です。